# 新庁舎開庁記念　特別対談

新庁舎開庁を控えた、令和3年11月11日、三者対談が行われました。

**中山**　皆さんこんにちは。長年待ち望んでいた、新庁舎がいよいよ開庁します。本日は設計者であります隈研吾先生と、新庁舎門標の「石垣市役所」の文字を揮毫頂いた茅原南龍先生にお越しいただきまして、特別対談を開催します。御二方よろしくお願いいたします。

会場は、市長室隣の応接室です。旧庁舎よりとても広くなっていて、これから多くの市民の皆様やお客様とこの場所でお話しできることを楽しみにしております。

さて、旧庁舎は一九七〇年に中央部分の建設がされ、その後増築などを経て今日に至りますが、業務の多様化で狭隘となり、また、バリアフリーや老朽化、災害対応等の課題があり、移転することとなりました。

新庁舎に関しましては、高台移転を行い、災害用備蓄倉庫を備えておりまして、万が一の災害時には、隣接して整備される予定の防災公園と一体となって、避難生活が送れるような対応を取らせて頂きます。

## 内覧後の感想

**隈**　今日、机や椅子が揃った状態を見ることが出来ました。ひとつひとつ石垣らしい温かい色でコーディネートしましたが、建物とマッチしてとても良かったと思います。

**中山**　外観では赤瓦や石垣が島らしいデザインで、また、内観はリュウキュウマツなど島の素材が活用されていて、温かい素晴らしい庁舎になりましたね。

南龍先生にも一言ご感想を頂きたいと思います。

**茅原**　まず、隈先生に心から感謝を申し上げたいです。そして、市長の庁舎への想い、隈先生との切磋琢磨で庁舎を完成された。

外観のイメージと内観のぬくもり、それから長い歴史が刻まれたリュウキュウマツの素材が使われているのを見たときに、熱いものを感じました。この場所は、市民のエネルギーがどんどん出てくる城になると思いました。

**中山**　ありがとうございます。門標の文字については、是非南龍先生にお願いしたいと設計の段階で思っていました。とてもマッチしていて嬉しく思っています。

**茅原**　図面を見た段階で、赤瓦や開けた視界の雰囲気から、これはまさに八重山群島の城となるのではと想像していました。この場所に似合う門標にするには、楷書が良いと思いました。隈先生の壮大な歴史を感じさせる設計に、私なりに育んできた書の考えをマッチさせて、この様な文字が出来ました。私自身もとて嬉しく思っています。

**中山**　隈先生に伺います。新庁舎のコンセプトを『石垣の風景を継承するみんなが集う市役所』としていただきました。設計の中にどのように活かされているのかお聞かせください。

**隈**　設計に携わる以前から、石垣が好きで、何度も通っていまして、その景観を庁舎に活かせたらと考えました。石垣の山のラインの美しさを赤瓦の大屋根で表現して、中に入ったときに家にいるような安心感をつくれたらと思いました。

市長がやはり防災を非常に大事にされていますので、安心感が大切だと思いました。防災と同時に、皆さんが集って、コミュニケーションが生まれるような大屋根をつくることからデザインがスタートしました。

その下に、天井の高い大空間を作って、そこにいるだけで落ち着き、市民の皆さまが幸せを感じるような空間をつくろうと思いました。リュウキュウマツをふんだんに使って安心感のあるあたたかいインテリアにしました。中央の市民広場からは、一望で議場までが見渡せるというつくりで、全国でもあまり例がないような一体感のあるつくりだと思います。